

一九九七年(平成九)度の大分県地方史研究会大会・総会は、六月一日(日)一〇時から大分県立図書館第二・三研修室で開催された。総合同会飯沼賢司委員(別府大学)の進行で、最初に故渡辺澄夫先生に対して黙禱をささげ、午前中に会員による研究発表、午後は総会・公開講演を行い一五時三〇分過ぎに閉会した。参加者約五〇名。大会の概要は以下のとおりである。

(一)会員研究発表(一〇:〇〇~一二:〇〇)

高崎章子(中津市教育委員会)

「長者屋敷遺跡の発掘」

大野和則(大分市歴史資料館)

「米と日本のくらし展」

「大分市歴史資料館における民俗分野の活動」

野口裕紀(別府大学大学院生)

「中世における茶の生産・流通」

「西日本の事例を中心として」

軸丸勇(大分県地方史研究会会員)

「西南戦争豊後地方戦記」

(二)総会(一三:〇〇~一三:四〇)

座長に橋本操六氏(大分市)を選出。最初に渡辺先生の逝去に伴い空席となっていた会長について、五月に開いた委員会の結果をふまえて後藤正二委員が、豊田寛三委員長を会長に、小泊立矢委員を委員長とする案を提案、出席者の了承を得た。豊田新会長の挨拶のあと、第一五回大分県地方史研究奨励賞の発表、表彰式が行われた。今回は会誌一六三号に「豊後府内城天守について」を発表された小野英治氏(弥生町職員)が受賞。小野氏は県内城郭研究の先駆的存在で、『日本城郭大系』全二〇巻(新人物往来社)の大分県の部の執筆なども担当されている。また先年発刊された『弥生町誌』編纂事務局の中心となり活躍された方である。

議事は次の三件である。

一、一九九六(平成八)年度事業・会計報告とその承認

一、一九九七(平成九)年度の事業計画について

一、一九九七(平成九)年度の会計予算について

一号議案について事務局の説明があり、全会一致で承認された。ついで赤峯重信監事の方から監査報告があり、会運営

は適性に行われている旨の報告があった。

第二号議案について事務局から、会誌一六六号を渡辺澄夫先生追悼号Ⅰ、一六七・八を合併号とし同Ⅱとする旨の説明があった。また研究会活動の件について、中世文書研究会が運営方法を検討中のため現在休会中であること、近現代史研究会事務局担当者が長野浩典氏(東明高校)に変更したこと、二点の報告があった。その他会計事務負担軽減のため、補助員及びパソコン管理システムを導入する件についても説明があり、いずれも承認を得た。第三号議案についても事務局案通り承認を得た。

(三)公開講演(一四:〇〇一―一五:三〇)

小泊本会委員長(県立先哲史料館)により「中世豊後における時宗の動向」のテーマで講演があった。

中世文書研究会以外の研究会活動の概要は下記のとおりである。出席者の少ない会もあり、会員の積極的な参加を望むものである。開催日は原則として毎月第二土曜日、県立図書館研修室で行っている。

古代中世史研究会

九六・六・八	吉良 國光	豊後国大野庄における耕地の開発と志賀氏の領主制
八・二〇	長田 弘通	戦国時代府内絵図について―故立川氏旧蔵絵図の紹介―
一一・二	櫻井 成昭	宇佐歴史民俗資料館特別展「みやこの仏世界と豊の國」展示解説と観覧
一二・二四	荒川 良治	肥後天草郡と大友親世一分部の成立をめぐる一
九七・三・八	小泊 立矢	豊後における時宗の展開

近世史研究会

九六・六・一五	大津 祐司	佐伯藩領の逃散・強訴について
九・二一	佐藤 晃洋	新田開発と境目論争―佐伯藩の事例を中心として―
一一・二	櫻井 成昭	宇佐歴史民俗資料館特別展「みやこの仏世界と豊の國」展示解説と観覧
九七・一・二五	上杉ひろみ	近世農民の地理的移動―直入郡一二ヶ村を中心として―
四・一二	大津 祐司	佐伯藩におけるキリシタン・類族

近現代史研究会

九六・七・六	安永武一郎 松本 正	先哲史料館文化講演会「瀧廉太郎の世界」聴講
九・七	荒川 良治	明治期大分の風水宮
一〇・一二	田本 政宏	*終了後、公文書館企画展観覧 幕末明治期の私塾―帆船を中心として―
一一・二	櫻井 成昭	宇佐歴史民俗資料館特別展「みやこの仏世界と豊の國」展示解説と観覧
九七・二・二二	河野 正	大分県における近代農業技術の発達